

目次 CONTENTS

- 2 今月の話題「森林組合60周年」
- 4 特集「カラダを楽しく動かそう!」
- 8 報告「行政区長・副区長紹介」
- 9 報告「村の新しい顔」
- 10 報告「ふくしま田園中枢都市圏」
- 11 ほけんとふくし「新型コロナ情報」
- 12 飯館百景「春の花園で」
- 14 学びの広場「入学式・入園式」
- 16 いいたて便り
- 18 話題のパレット
- 19 はなれていても／ふれ愛館だより
- 20 おしらせのページ
- 21 入札結果
- 22 いいたてDIARY／までの食卓
- 23 ふるさと資源／ひとのうごき
- 24 ほっとNEWS／飯館言葉の達人



今月の表紙
會田征男さん・ツタ枝さん夫婦（伊丹沢）が想いをこめ毎年3,000本の桜を咲かせる『飯館復興の桜』。満開を迎えたある日、までの里のこども園はな組さんの阿部心咲（みさき）ちゃんがお母さんの美由喜さん（草野）とお花見散歩に来ていました。村外からも訪れるたくさんのお花見客に手を振り、小さな虫や草花とお話しながら、元氣いっぱい散歩を楽しんでいましたよ。

森林の再生へー念願の挑戦が始まる

60周年を迎える飯館村森林組合で新しい物語が生まれています

60周年からの
さらなる飛躍を!

森林整備などに活躍する飯館村森林組合が、創立60周年を迎えます。60周年を記念して、県の新品種の桜「ハルカ」を60本購入し、各所で植樹を行う計画です。合わせてつづプロジェクトが動いています。佐藤長平組合長が保管してきたナラの無垢材を活用した取り組みです。このナラは、30年ほど前に伐採・製材され、村に住む家具職人が活用していました。役場の玄関ホール横にある1枚板のテーブルや椅子もその作品の一つです。しかしその後は使われることなく、長期保存で非常に堅くな

り、活用方法を模索していたそうです。そんな中、「村カフェ753」で販売されていた木工品がきっかけとなり、作家の方と相談をして記念の「鍋敷き」をつくることになりました。やすりがけやワックスがけの工程は、工房近くの福祉事業所が担当します。眠っていたナラの木の大変身が始まりました。

令和6年稼働予定の木質バイオマス発電所で燃料となる間伐材の集積も来年から始まる見込み。組合の活躍の場がますます広がります。森林の再生へ、大いなる挑戦が始まるうとしています。

●飯館村のバイオマス発電事業●

村の公募事業「飯館から始まる森林再生と未来志向型農業体系（木質バイオマス施設）緊急整備事業」で選定された「飯館バイオパートナーズ」が事業主体となり実施します。環境調査等を経て、今夏、建設工事に着手し、令和6年春頃の運用開始を目指します。

名称	飯館みらい発電所
出力	7,500kw
種類	木質燃料を使用する バイオマス発電所
燃料	地元間伐材・バーク（樹皮）・ 一般木材等 約9.5万t/年

木質燃料となる間伐材の産出に森林組合が協力します

組合事務所で60周年記念グッズの打ち合わせが行われていた4月14日。作業を終えて組合に戻って来た職員の皆さんも一緒に。組合では、事業拡大に伴い、職員及び協力事業所を引き続き募集しています。



工房「米クラフト」
木工作家・米倉一磨さん

自立研修所 ビーンズ
所長・北畑尚子さん

記念に作られるナラの
無垢材を使った鍋敷き
とエコバッグ



鍋敷きは、米倉さんが南相馬市の工房で製作。木目の風合いを生かしながら滑らかなフォルムを1枚ずつ削り出します。



やすり磨きやワックスの塗布など、工房に近い「ビーンズ」の皆さんがこだわりを持って丁寧に仕上げます。



国内の林業が外国産木材に押され、各地で森林組合の広域合併が進みましたが、村組合は800人以上の組合員がいて単独を維持しました。震災後は除染にも参入。議会では「木質バイオマス発電」で里山の環境を守れないかと要望活動も行いました。

様々な課題がありましたが、今回、蔵平減容化施設の跡地に木質バイオマス発電所がつくられます。減容化施設運用時のノウハウも生かせる訳です。燃料として、村の民有林で間伐を行う予定で、非常に多くの木材が必要となることから県内各地の木材も受け入れます。長年の夢が叶う一大プロジェクト。村民の皆さんにも参加を呼びかけ、やりがいのある山仕事にしていきたい。原発被災者の意地と誇りを見せたいよね。



飯館村森林組合 組合長
佐藤長平 さん（宮内）
平成25年から組合長。また震災当時の村議会議長。木質バイオマス発電による森林の再生は議会でも要望を行ってきた念願の事業です。